

## 第7節 5日目:8月4日(金): 津川～咲花 晴れ

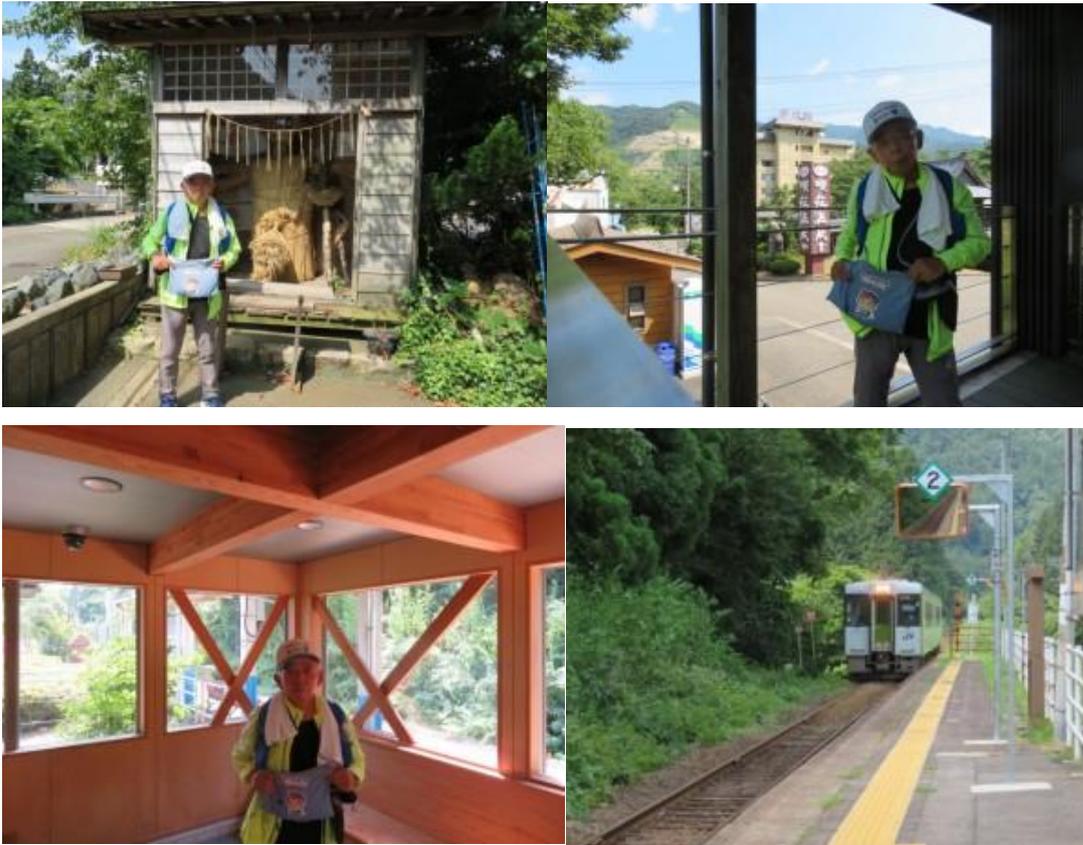
2023年8月4日(金)晴れ、磐越西線仕上げ旅の5日目は、津川駅から咲花駅までの営業キロ18.6kmに挑戦する。本日は咲花10時4分の列車であったので、朝食前にホテル界隈を散歩する。それから8時頃から朝食を頂く。8月1日(火)、8月3日(木)の徳沢駅へのアクセスとは好対照であった。ここでも九ヶ条からなる”こだわり鉄道つたい歩き”の第5条(先憂後楽の考え方)を運用する。



※阿賀野川土手散歩



※朝食を頂きいざ出発



※ホテルで安全祈願、咲花駅

各駅舎の到着時刻は次の通り。

津川(10:36)～三川(13:56)～五十島(いがしま、15:43)～東下条(ひがしげじょう、16:58)～咲花(18:13)

①阿賀野川に沿って歩く。11時13分、鐘道大明神前で本日の安全を祈願する。11時19分、多賀神社前を通過。11時27分、津川から三川までの期間で概ね中間地点で通行止めの金網柵(道路一面)にぶつかる。頭の中が真っ白となる。地図を確認し善後策を考える。地図をよく見ると、只今歩いた所に亀裂のようなマークがあった。90分のロスタイムは勉強不足と真摯に受け止め対策を考える。その結果、津川駅界隈から阿賀野川を渡れば、三川駅に行けるルートがあることを発見する。12時6分、阿賀野川を渡るきりん橋(243m)の袂までリカバリーする。



※津川駅、湖のような阿賀野川



※鐘道大明神、多賀神社、行き止まりの金網



#### ※リカバリーへの路

県道 512 号線を歩く。12 時 37 分、国道 49 号線に繋がる幹線道路を歩く。12 時 43 分、国道 49 号線に合流する。12 時 45 分より 43m ある赤岩大橋を渡る。その先に 2,661mある赤岩トンネルがある。このトンネルを 12 時 46 分から 13 時 20 分にかけて通過する。13 時 27 分より 343mある小花地大橋を渡る。13 時 33 分より再び 398mある赤岩トンネルを通過する。13 時 46 分、右手にJR線路を見つけ安堵する。三川駅には 13 時 56 分到着。津川駅から三川駅までの営業キロ 7.4 kmに 3 時間 20 分要す。しかし、90 分ロスタイムしたが、無事踏破できホッとする。



#### ※きりん橋を渡り県道 512 号線を歩く





※国道 49 号線に出る、赤岩トンネルを歩く、小花地大橋を渡ると右手に線路



※三川駅

②14 時 4 分、三川小学校・中学校前を通過する。その先でJR線を跨ぎ、鉄道の右側となる。14 時 9 分より 315mある白崎橋を渡る。14 時 21 分、2 頭のサルが道路を横切る。3 頭目のサルが渡ろうとするところ「危ないよ」と声をかえたところ、草むらに引き返す。この界隈で鉄道に沿った幹線道路を歩こうとするが、T 路地にぶつかる。近隣の方に「どちらの方向に進めばいいのですか」とお伺いする。ネットを検索しながら、「どちらも路も五十島駅には行けません。国道に戻って直進し、二つの橋を渡って下さい」と教えて頂く。お礼を言って別れる。最近の若者は親切で、我々年配の世代にとって有難い。20 分位ロスタイムが生じる。15 時 3 分より、421m ある岩津橋を渡る。15 時 20 分、岩谷交差点に到達。ここから万歩計で 760 歩ある五十島橋を渡る。五十島駅への

案内板があるが見つからず右往左往する。相当鉄道に沿った道筋の迂回を余儀なくされ、やっと五十島駅には 15 時 43 分到着。



五十島駅への路、鉄道つたい歩きで失敗(山や川が絡む場合通用しない)



※岩津橋と五十島橋を渡る



※五十島駅は見えるが踏切見えず



※五十島駅、遠くに五十島駅

③15時58分、岩谷交差点に戻る。16時より、1,070mある五十島トンネルを通過する。このトンネルを出ると長い洞門が続く。やっと16時24分、長い洞門を出る。16時48分より、233mある取上橋を渡る。東下条駅には16時58分到着。喉がからからとなるが、辺りには自動販売機はなし。



※東下条駅への路



※東下条駅

④17時12分より272mある釣浜橋を渡る。この先の道の駅でやっと自動販売機を見つけ、喉の渴きを潤す。17時40分、咲花温泉が阿賀野川の対岸に見えて来る。17

時 50 分、阿賀町から阿賀野市となる。17 時 55 分より、ダムにかかる橋(万歩計で 598 歩)を渡る。阿賀野川土手を歩き、咲花駅には 18 時 13 分到着。



※咲花駅への路



※咲花温泉、その近くに咲花駅



※橋を渡り土手を歩く



※咲花駅

⑤ホテル丸松には 18 時 22 分到着。万歩計は 54,526 歩をマーク。温泉で汗を流した後、19 時より食事を頂き本日の疲れを癒す。



※ホテル丸松への路



※ホテルで英気を養う

## 第8節 6日目:8月5日(土): 咲花～新津 晴れ

2023年8月5日(土)晴れ、磐越西線仕上げ旅の6日目は、咲花駅から新津駅までの営業キロ20.0kmに挑戦する。昨日に引き続き朝風呂で寛いだ後、フロントに出向き、(1)背負うリュックを少しでも軽くするため、不要となった衣類の宅急便手配、(2)2泊お世話になった宿泊代の精算、そして(3)昨夜宿帳日記に記載したメモのところに別紙(カッシー館ちらし)を添付する作業を行う。その後、昨日に引き続き8時から朝食を頂く。本日は夕方新潟で友人に会うため、新津駅発15時52分の列車に間に合うよう到着したかった。それ故それなりに時間との闘いを余儀なくされた。ホテルを8時

37分チェックアウト。咲花駅への途中、昨日のメモ帳に引き続き、本日もタオルを忘れたことに気づき引き返す。



※2日間、20畳余の部屋でゆったり、恰も大名気分になったような錯覚をする



※ホテル丸松を後にする

各駅到着時刻は次の通り。

咲花(8:53)～馬下(まおろし、9:51)～猿和田(10:50)～五泉(12:00)～北五泉(12:46)～新関(しんせき、13:46)～東新津(14:53)～新津(15:30)

①県道 353 号線(咲花温泉線)を歩く。9 時 26 分、橋が跨る馬下交差点を通過。9 時 32 分、国道 290 号線を歩く。第1芳松街道踏切を渡るべきところ、駅舎が国道に面していると思いそのまま直進する。400m位歩いても駅に繋がる道路はない。近くにおられた方に確認する。「信号があるところに踏切があります、その踏切を渡り鉄道に沿って歩いた先にあります」と丁寧に教えて頂く。10 分位ロスタイムとなる。9 時 43 分、踏切を横切り、県道 134 号線を歩いた先に馬下駅(9 時 51 分)があった。



※咲花温泉、馬下駅への路



※馬下駅への路



※馬下駅

②県道 134 号を歩く。10 時 30 分、ラッキーにも土日・祝日しか運転しない、会津若松行方面に向かう SL 蒸気機関車(”SL ばんえつ物語”で PR、新津～会津若松間運転)と対面する。10 時 38 分、笹堀踏切を横切り鉄道の右側となる。猿和田駅には 10 時 50 分到着。



※SL 列車に対面(再掲)



※猿和田郵便局



※猿和田駅

③11時22分より、早出川を渡る。淡々と歩いた先に五泉駅(12時があった)。



※五泉駅への路



※五泉駅

④北五泉駅への道筋、今回の旅で初の鉄道に沿った路地歩きを楽しむ。12時41分、白山踏切があるが渡らず。12時46分、北五泉駅に到着する。



※路地歩きを楽しむ、白山踏切は渡らず



※北五泉駅

⑤12時58分、第一中野踏切を横切り、鉄道の左側となる。13時7分、第二中野踏切を横切り右側となる。田んぼ路を歩く。13時12分、幹線道路に合流。13時34分、JR線を跨ぎ鉄道の右側となる。新関駅には13時46分到着。会津若松方面の列車が通過して行く。新関駅を通り過ぎた界限でかき氷(14時～14時13分)で火照った体を癒す。





※新関駅への路



※新関駅



※かき氷は最高の援軍となった

⑥14時17分より、万歩計で310歩ある東雲橋(能代川)を渡る。田上や加茂といった懐かしい地名が道路標識上に登場する。東新津駅は遠かった。14時40分、幹線道路を通じて第3村松街道踏切を横切り、鉄道の右側となる。只今歩いている幹線道路は県道7号線(新津村松線)とある。14時51分、裁判所踏切を横切り200m位戻った先に東新津駅(14時53分)があった。



※東新津駅への路



※東新津駅

⑦再度、幹線道路に戻り、淡々と歩いた先に、羽越本線や信越本線で立ち寄った、懐かしい新津駅(15時30分)があった。駅前で事前に用意してきた団扇をもって、新津駅を背景に写真を撮影する。津川駅からやって来た15時52分の新潟行きに乗り、新潟駅まで移動する。



※新津駅への路



#### ※新津駅

⑧ニイガタステーションホテルには16時45分到着。ホテルで汗を流した後、ホテルロビーで2017年6月3日(土)白新線(新発田～新潟)踏破の際古町安兵衛で知り合った友人と18時待ち合わせ。なお、この友人とはラインを通じて親しくさせて頂いている。彼の行きつけの店である古町の養老乃瀧までタクシーで移動。そこでカッシーご愛好者の仲間も合流し、18時から22時頃まで旧交を温める。磐越西線仕上げ旅として最高の一日となった。堀口さん廣川さんお世話になりました。この場をお借りして熱

く厚く御礼申し上げます。また、新潟立ち寄りの際は宜しくお願い致します。旅で知り合った友はいいものですね。



列車で新潟まで移動



※新潟駅、ホテルチェックイン



※廣川さん、堀口さん有難うございました